

## 株主メモ

決算期 3月31日

定時株主総会 6月

定時株主総会議決権  
行使株主確定日 3月31日

利益配当金支払  
株主確定日 3月31日

中間配当金支払  
株主確定日 9月30日

株式名義書換  
停止期間  
・ 4月1日から4月30日まで  
・ 10月1日から10月31日まで

〔上記のほか、必要があるときは、あ  
らかじめ公告したうえ、臨時に一定  
期間名義書換を停止する。〕

上場証券取引所 東京・大阪・名古屋・京都・広島・  
福岡・新潟・札幌

公告掲載新聞 日本経済新聞

名義書換代理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
安田信託銀行株式会社

同 事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
安田信託銀行株式会社 本店証券代行部

(郵便物送付先)  
電話お問合せ先 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
安田信託銀行 東京事務センター内  
安田信託銀行株式会社 証券代行部分室

☎(03)3642-4004 (大代表)

同 取次所 安田信託銀行株式会社 全国各支店



Vol.2

第81期 事業報告書  
平成10年4月1日～平成11年3月31日



# くらしの笑顔が もっと輝きますように。

## 21世紀のさらなる発展へ向けて 中期構造改革計画

到来しつつある大競争時代にも持続的な成長を果たせる企業体質の構築を目指し、2000年度までの3力年にわたる収益構造の改善計画を実施しています。

### 企業理念

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

### 基本姿勢

真に生活者の方々に望まれ、  
評価をいただける商品やサービスを生産性高くお届けする。

### メインテーマ

- 21世紀における発展の基盤を確固たるものにする。
- ・基幹事業のさらなる強化 環境変化へのすばやい対応  
経営資源の重点投入
  - ・財務体質の強化 有利子負債の削減



ごあいさつ .....	2	連結決算概要 .....	11
事業概要と中期構造改革計画 .....	3	KEY WORD .....	13
決算ハイライト .....	5	INTRODUCTION .....	15
営業の概況 .....	6	ニチレイ・コラム .....	17
部門別概況 .....	7	まあいテーブル .....	19
単独決算概要 .....	9	株式の状況 .....	21
		会社概要 .....	22

## ごあいさつ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

第81期事業報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当期のわが国経済は、金融システム不安や雇用・所得環境の悪化などから、個人消費の低迷が続き、民間設備投資も大幅に減少するなど、極めて厳しい状況で推移いたしました。

食品関連業界におきましても、企業収益の悪化などを背景として、消費マインドが一段と冷え込み、百貨店やスーパーの食料品売上高が既存店ベースで前年実績を下回るなど、事業環境は引き続き厳しいものとなりました。

このような経営環境のもと、当社は事業競争力の強化に努めましたが、売上高、経常利益ともに前期に対して減収、減益となりました。また連結経営時代に備えてグループ全体の収益体質を強化するため、国内外の子会社の事業再編に取り組みましたので、誠に遺憾ながら、当期損失を計上することとなり、株主の皆さまには深くお詫び申し上げます。

なお、当期中間事業報告書でもご報告をいたしましたように、当社は「中期構造改革計画」を昨年4月にスタートさせ、「生活者重視の視点」から新商品・サービスの開発に取り組むとともに、営業組織の改革や流通型物流サービスセンターの開設など、基幹事業のさらなる強化に努めております。

今後につきましては、より厳しい姿勢をもって「中期構造改革計画」を着実に実行し、収益基盤を確固たるものにするために、全社をあげて努める所でございます。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成11年6月



代表取締役社長

手島 忠

### 低温物流事業

日本の営業冷蔵倉庫の先駆者として、全国に低温物流ネットワークを展開し、豊かで安全な食生活を支えてきました。従来の保管機能の高度化に加え、多品種少量化、多頻度配送などの時代のニーズに応え、流通の各段階に対して、より効率的な低温物流システムをご提供しています。ニチレイはお客様の良きパートナーであり、信頼される真のサードパーティロジスティクス業者として「物流の全体最適化」を目指し、高度な総合一括物流である 低温物流トータルソリューション を実現していきます。

### 不動産事業

空間を通じて「人と人のふれあう」豊かさをご提案しています。「ニチレイ東銀座ビル」や「ニチレイ明石町ビル」のような都市型インテリジェントビルに加え、ニュータウン造成分譲など、多彩な空間価値を創造しています。

## くらしのご満足を さまざまなカタチでご提案。



### リフレッシュ低温物流

能力増強投資を抑制し、情報化・FA化の推進によりローコスト運営を進めながら、お客様の物流改善にお応えできる事業運営を目指します。

さらに、大手量販店などの物流センター運営受託や物流システム提案も積極的に展開していきます。

### スリム&タフ管理

要員の多役化・少数精鋭化を推進し、スピーディーな意思決定が行える組織運営に転換していきます。部の統廃合により全社的な管理機構のスリム化を図ります。

### 財務体質の強化

設備投資の厳選や短期運転資金の圧縮、資産の流動化を進め、有利子負債を計画的に削減します。

### パワーアップ食品

お客様の業態に対応した組織を編成し、質・量ともに増強したソリューション営業（お客様の課題解決型営業）体制で、お客様のニーズに的確にお応えします。さらに商品カテゴリーごとに、原料調達から製造、販売までの一貫性のあるマネジメントを導入します。また、水産品・畜産品事業では、採算性と高品質商材の供給を重視し、安定収益を確保します。

## 食品事業

### 加工食品

昭和26年に「冷凍ミカン」などから始まったニチレイの冷凍食品事業は、調理技術の高度化と生活者のニーズにあった商品開発を進め、トップメーカーとして常に業界をリードしてきました。さらに冷凍食品以外にも、アセロラ食品や高齢化社会を見据えたヘルスケア食品などのユニークな商品を発売し、幅広い領域をカバーしています。低温物流事業や水産品・畜産品を扱う素材事業など他の加工食品メーカーにはない「強み」を持つニチレイは、総合力を活かした新たな商品開発・商品提案に、積極的に取り組んでまいります。ニチレイは、これからも安心・安全で高い品質の素材（肉・魚・野菜）を高度な技術で加工した商品をお客さまにお届けし、皆さまの豊かな食生活に貢献してまいります。

### 水産品

品質第一を基本に、世界中の産地から、活きの良さをそのままパック凍結し、食卓を彩る水産品をご家庭や業務用マーケットにお届けしています。商品開発に力を注ぎ、素材から加工品まで多彩な商品を揃えてお客さまのご要望にお応えしています。

### 畜産品

お客様のニーズは、“安心・安全・健康”へと大きく変わりつつあります。ニチレイは、品質へのこだわりを大切に、国内はもとより、世界各地の調達ネットワークを駆使して、「安全でおいしい」鶏肉、牛肉、そして豚肉を皆さまの食卓にお届けしています。

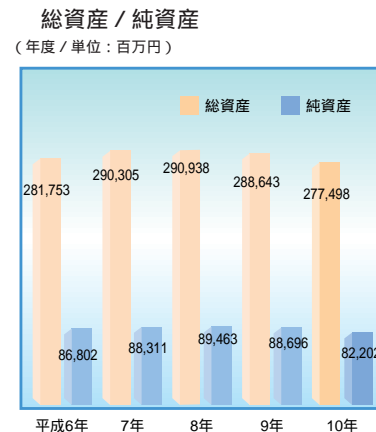
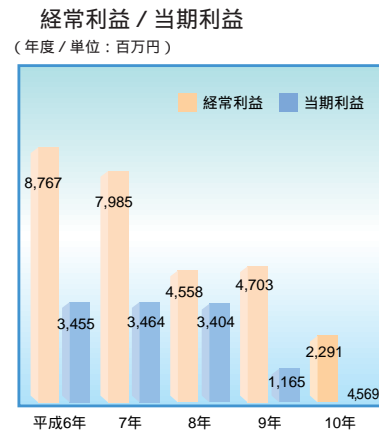
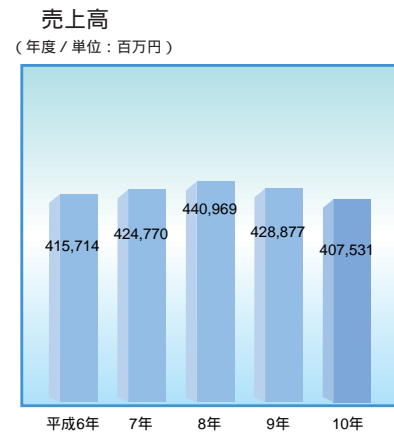
### 中期構造改革計画の経過

中期構造改革計画に基づいて、各施策に取り組んでまいりました。特に新しい編成となった食品営業組織の活動は、お客さまのご支援を得て、売上げに寄与するようになってまいりました。また、年度末には、計画1年目の取組みを踏まえ、経営幹部による徹底した見直しを実施いたしました。

## 決算ハイライト

区 分	単位	第 7 7 期 (平成 6 年度)	第 7 8 期 (平成 7 年度)	第 7 9 期 (平成 8 年度)	第 8 0 期 (平成 9 年度)	第 8 1 期 (平成 10 年度)
売 上 高	百万円	415,714	424,770	440,969	428,877	407,531
経 常 利 益	百万円	8,767	7,985	4,558	4,703	2,291
当 期 利 益	百万円	3,455	3,464	3,404	1,165	4,569
総 資 産	百万円	281,753	290,305	290,938	288,643	277,498
純 資 産	百万円	86,802	88,311	89,463	88,696	82,202
1 株 当 たり 当 期 利 益	円	11.11	11.14	10.95	3.74	14.69
1 株 当 たり 純 資 産	円	279.24	284.10	287.80	285.33	264.44
従 業 員 数	人	2,894	2,842	2,785	2,671	2,511

(注) 1. 第81期(当期)より事業税の表示変更を行ったため、各期の経常利益は事業税額を加算して記載しております。  
 2. 印は損失を示しております。  
 3. 1株当たり当期利益および1株当たり純資産は期末発行済株式総数により算出しております。



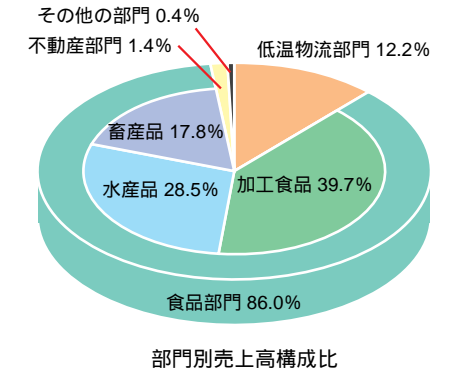
## 営業の概況

当期の売上高は、主として素材食品の売上げの減少により、4,075億31百万円(前期比5.0%の減収)となり、経常利益は低温物流事業の採算が悪化したことなどから、22億91百万円(前期比51.3%の減益)となりました。

特別損益では、子会社関連損失として、北米における食品の製造・販売事業再編の引当てなどによる損失102億84百万円、株式会社ユキワの再建に伴う支援損81億円などの合計額190億20百万円を特別損失に計上(特別損失の総額は208億86百万円)するとともに、土地、投資有価証券ならびに有価証券を売却し、特別利益に150億85百万円を計上(特別利益の総額は156億92百万円)いたしました。子会社関連損失の全額を手当てするには至りませんでした。

以上の結果、誠に遺憾ながら、当期損失は45億69百万円となりました。

なお、当期末の利益配当金につきましては、来期に損失の繰越を行わず、また安定的な配当を継続するために、別途積立金を一部取崩すこととし、1株当たり3円(年間6円)の配当とさせていただきます。



今後の景気動向につきましても、個人消費の早急な回復は期待できず、経営環境は引き続き厳しいものと予想されます。

当社は、このような経営環境に対処するため、社会・時代の変化に機敏に応える経営組織の再構築に取り組む一方、資本効率の重視や「お客さまに満足いただける価値の最大化・最良化」を目標とした事業運営の構造改革を推進し、スリムで収益力の高い企業体質への転換を目指してまいります。

また、いわゆる「コンピューター西暦2000年問題」につきましては、経営上の重要課題と位置付け、「2000年問題対応プロジェクト」を発足させ全社的な対応を推進中であり、すでに基幹システムの確認作業は完了してはいますが、不測の事態に備えるための危機管理計画を1999年10月までにまとめる予定であります。「コンピューター西暦2000年問題」への対応に要する費用は、当社の業績などに重大な影響を及ぼすことはないものと予想しております。

## 部門別概況

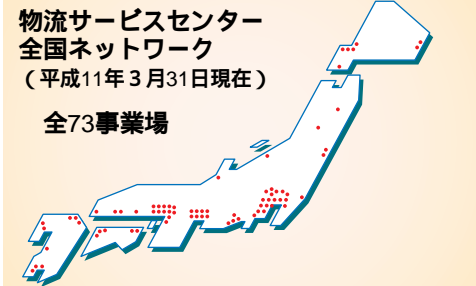
### 低温物流事業

当期の冷蔵倉庫業界は、景気低迷を背景に荷主の在庫圧縮の動きが拡大するとともに、主要港湾地区を中心とした庫腹の余剰などにより、集荷競争は一段と激化しました。

当社は、お客さまのニーズにあわせた質の高い物流サービスの提案や、全国的なネットワークを活かした営業活動を展開する一方、荷役作業の効率化と事務の合理化に取り組みました。また、量販店の物流業務を対象とした流通型物流サービスセンターを神奈川県川崎市に開設いたしました。

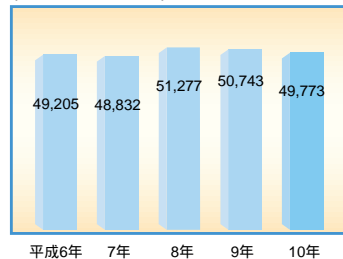
しかしながら、業界を取り巻く環境は厳しく、稼働率および保管料金の低下は避けられませんでした。

この結果、当部門の売上高は497億73百万円(前期比1.9%の減収)となりました。



入間LSC

低温物流事業の売上高  
(年度/単位:百万円)



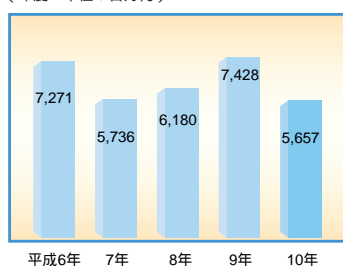
### 不動産事業

当期は、静岡県浜松市や神奈川県三浦市などにおいて宅地の分譲を行いました。茨城県牛久市における戸建分譲住宅の販売戸数の減少などにより、売上高は56億57百万円(前期比23.8%の減収)となりました。



牛久駅西ニュータウン

不動産事業の売上高  
(年度/単位:百万円)



## 食品事業

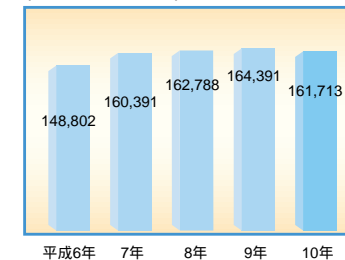
### 加工食品

冷凍食品業界は、業務用が外食市場の需要低迷で落ち込みましたが、家庭用は麺・ピラフ類を中心に堅調に推移しました。当社の家庭用は、「新・レンジ生活/えびクリームグラタン」や、季節の素材を活かした旬シリーズのおにぎり、ピラフなどの新商品が売上げに大きく寄与いたしました。有機冷凍野菜などの農産加工品は、生鮮野菜の高騰もあり、家庭用・業務用ともに飛躍的な伸びとなりました。レトルト食品・缶詰は、家庭用の「ふかひれスープ(箱入り)」などが順調に推移しましたが、ギフト缶詰などの不振により、売上高は減少しました。また、アセロラ関連商品では、「アセロラヨーグルト」などを昨年6月に発売し、新しい分野を開拓いたしました。

以上の結果、売上高は1,617億13百万円(前期比1.6%の減収)となりました。



加工食品の売上高  
(年度/単位:百万円)



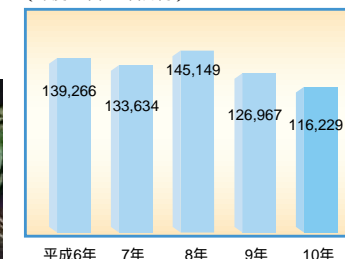
### 水産品

水産業界は、円安や海外漁場の漁獲不振などから輸入量は大幅に減少しましたが、魚価の上昇による需要の減退に加え、流通・加工業者が在庫の圧縮を進めたため、市況の低迷が続く厳しい事業環境となりました。

当社は、海外仕入先への技術指導により品質の向上を図る一方、量販店などへの販売強化に取り組みましたが、採算を重視して取扱品目を厳選したため、売上高は1,162億29百万円(前期比8.5%の減収)となりました。



水産品の売上高  
(年度/単位:百万円)



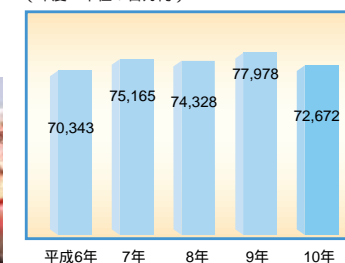
### 畜産品

畜産業界は、牛肉、鶏肉につきましては、外食・業務用市場の需要が拡大したものの、家計消費の伸び悩みから、需給関係の改善が進まない状況で推移しました。また、豚肉の相場は全体的に軟調となりました。

当社は、安心・安全志向のニーズにあわせた鶏肉などを市場に投入するとともに、量販店向け精肉パック商品の取扱いの拡大に努めましたが、売上高は726億72百万円(前期比6.8%の減収)となりました。



畜産品の売上高  
(年度/単位:百万円)



## 単独決算概要

## 貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	第80期 平成10年3月31日現在		科 目	第80期 平成10年3月31日現在	
	第81期 平成11年3月31日現在	第80期 平成10年3月31日現在		第81期 平成11年3月31日現在	第80期 平成10年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	117,916	127,146	流 動 負 債	100,935	100,263
現金・預金	3,093	2,957	支払手形・買掛金	25,682	25,166
受取手形・売掛金	57,722	59,025	短期借入金	26,954	19,687
有価証券	21,054	26,597	コマーシャルペーパー	15,000	17,500
たな卸資産	28,893	32,193	その他	33,298	37,909
その他	7,547	6,836	固 定 負 債	94,360	99,683
貸倒引当金	394	463	社 債	55,000	65,000
固 定 資 産	159,581	161,496	転換社債	6,307	6,307
有形固定資産	119,215	125,462	長期借入金	13,589	9,102
建物	62,778	66,465	引当金	922	801
機械装置	16,630	18,951	預り保証金	18,541	18,472
土地	31,149	30,956	負 債 合 計	195,296	199,946
その他	8,657	9,088	資 本 の 部		
無形固定資産	1,289	1,295	資 本 金	30,307	30,307
投資等	39,075	34,738	法定準備金	28,935	28,741
投資その他	39,681	35,518	剰余金	22,959	29,646
貸倒引当金	605	779	(うち当期利益)	( 4,569 )	( 1,165 )
資 産 合 計	277,498	288,643	資 本 合 計	82,202	88,696
			負 債 及 び 資 本 合 計	277,498	288,643

- (注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 118,668百万円  
 2. 保証債務 38,006百万円  
 3. 1株当たり当期損失 14円69銭  
 (期末発行済株式数による)

4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 単独決算ポイント

流動資産では、営業資金(運転資金)の効率的な管理により「受取手形・売掛金」や「たな卸資産」を圧縮し、また有形固定資産につきましては、保管型冷蔵倉庫の新規設備投資を休止したことから、総資産は前期末に比べ111億44百万円減少いたしました。

有利子負債は、設備投資の抑制および遊休資産の処分などにより、前期末に比べ79億21百万円減少いたしました。

連結経営の強化に向けて、北米事業再編損失102億84百万円と株式会社ユキワに対する子会社支援損失81億円を特別損失に計上いたしました。この損失の手当てとして土地、投資有価証券および有価証券の売却益150億85百万円を特別利益に計上いたしました。

## 損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	第81期 平成10年4月1日から 平成11年3月31日まで		第80期 平成9年4月1日から 平成10年3月31日まで	
	売 上	407,531	428,877	高 価
売 上 原 価	346,249	364,383	販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	364,383
営 業 利 益	57,045	58,598	営 業 外 収 益	58,598
営 業 外 収 益	4,236	5,895	営 業 外 費 用	5,895
営 業 外 費 用	2,492	3,654	経 常 利 益	3,654
経 常 利 益	4,437	4,846	特 別 利 益	4,846
特 別 利 益	2,291	4,703	特 別 損 失	4,703
特 別 損 失	15,692	2,634	税 引 前 当 期 利 益	2,634
税 引 前 当 期 利 益	20,886	4,463	法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	4,463
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	2,901	2,873	当 期 利 益	2,873
当 期 利 益	1,667	1,708	前 期 繰 越 利 益	1,708
前 期 繰 越 利 益	4,569	1,165	中 間 配 当 額	1,165
中 間 配 当 額	2,023	2,035	利 益 準 備 金 積 立 額	2,035
利 益 準 備 金 積 立 額	932	932	当 期 未 処 分 利 益	932
当 期 未 処 分 利 益	93	93		93
	3,571	2,174		2,174

- (注) 1. 第81期(当期)より事業税の表示変更を行ったため、事業税は、「法人税、住民税及び事業税」に含めて記載しております。  
 2. 印は損失を示しております。  
 3. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 利益処分

(単位:円)

項 目	金 額
当 期 未 処 理 損 失	3,571,229,368
特 別 償 却 準 備 金 取 崩 額	343,911,886
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 取 崩 額	1,068,720,710
固 定 資 産 圧 縮 特 別 勘 定 積 立 金 取 崩 額	691,675,239
別 途 積 立 金 取 崩 額	6,300,000,000
合 計	4,833,078,467
これを次のとおり処分いたします。	
利 益 準 備 金	94,000,000
利 益 配 当 金	932,549,640
(1株につき3円)	
特 別 償 却 準 備 金	13,565,633
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	1,100,000,000
固 定 資 産 圧 縮 特 別 勘 定 積 立 金	629,434,791
合 計	2,769,550,064
次 期 繰 越 利 益	2,063,528,403

- (注) 1. 平成10年12月2日に932,551,389円(1株につき3円)の中間配当を実施いたしました。  
 2. 特別償却準備金取崩額、固定資産圧縮積立金取崩額、固定資産圧縮特別勘定積立金取崩額、特別償却準備金、固定資産圧縮積立金および固定資産圧縮特別勘定積立金は、租税特別措置法に基づくものであります。

## 連結決算概要

## 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	第81期	第80期	科 目	第81期	第80期
	平成11年3月31日現在	平成10年3月31日現在		平成11年3月31日現在	平成10年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流動資産	153,886	168,843	流動負債	154,619	169,007
現金及び預金	7,969	6,609	支払手形及び買掛金	44,959	43,262
受取手形及び売掛金	77,890	82,443	短期借入金	56,938	62,095
有価証券	22,757	28,611	コマーシャルペーパー	15,000	17,500
たな卸資産	37,758	43,444	その他	37,722	46,149
その他	8,201	8,475	固定負債	130,157	137,078
貸倒引当金	690	740	社債	61,444	72,246
固定資産	210,562	223,216	転換社債	6,307	6,307
有形固定資産	168,812	176,254	長期借入金	42,292	38,682
建物及び構築物	97,162	101,041	引当金	2,080	2,018
機械装置及び運搬具	25,391	28,640	その他	18,032	17,823
土地	38,831	38,426	負債合計	284,777	306,085
建設仮勘定	3,442	3,929	少数株主持分	494	257
その他	3,984	4,216	資本の部		
無形固定資産	4,147	9,259	資本金	30,307	30,307
投資その他の資産	37,602	37,702	資本準備金	23,704	23,704
投資有価証券	22,092	20,516	連結剰余金	26,555	32,677
投資その他	20,837	21,585	(うち当期利益)	( 233 )	( 5,172 )
貸倒引当金	5,327	4,399	自己株式	0	0
繰延資産	39	20	資本合計	80,567	86,689
為替換算調整勘定	1,349	951	負債、少数株主持分及び資本合計	365,838	393,032
資産合計	365,838	393,032			

- (注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 157,750百万円  
 2. 保証債務 3,669百万円  
 3. 1株当たり当期利益 74銭  
 (期中平均発行済株式数による)
4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結決算ポイント

効率的な資金管理を徹底したことなどにより流動資産は減少し、また北米における食品の製造・販売事業の再編に伴い、固定資産が減少いたしました。

有利子負債は、遊休不動産の売却などにより213億27百万円減少したことから、当期末残高は1,959億94百万円となりました。

国内連結子会社の採算が改善いたしました結果、営業利益は前期に比べ15億34百万円増の80億46百万円となりました。なお、北米事業の再編や株式会社ユキワの再建など、グループ全体の収益体質の強化に取り組みました。

## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	第81期	第80期
	平成10年4月1日から平成11年3月31日まで	平成9年4月1日から平成10年3月31日まで
売上高	571,775	594,469
売上原価	477,692	498,618
販売費及び一般管理費	86,036	89,339
営業利益	8,046	6,511
営業外収益	3,299	4,049
営業外費用	7,962	8,013
経常利益	3,383	2,547
特別利益	11,343	1,639
特別損失	12,320	7,380
税引前当期利益	2,406	3,193
法人税、住民税及び事業税	2,049	1,937
少数株主利益	123	41
当期利益	233	5,172

- (注) 1. 第81期(当期)より事業税の表示変更を行ったため、事業税は、「法人税、住民税及び事業税」に含めて記載しております。  
 2. 印は損失を示しております。  
 3. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	第81期	第80期
	平成10年4月1日から平成11年3月31日まで	平成9年4月1日から平成10年3月31日まで
連結剰余金期首残高	32,677	39,889
連結剰余金増加高	216	-
連結剰余金減少高	6,572	2,039
配当金	1,865	1,865
役員賞与	120	134
その他	4,586	39
当期利益	233	5,172
連結剰余金期末残高	26,555	32,677

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結剰余金計算書(要旨)

(単位:百万円)

連結剰余金の減少は、主として、山陽コカ・コーラボトリング(株)を平成11年3月期末において持分法の適用会社から除外したことによるものであります。

# KEY WORD

ニチレイならではの企業活動やトピックスなどをキーワードによりご紹介いたします。

## 低温物流トータルソリューション

日本最大のネットワークと総合力で、あらゆるニーズに対応する総合一括物流を実現。

低温物流事業は、戦前より日本の食品流通を支えてきたニチレイの基幹事業です。数々の画期的な技術で冷蔵倉庫業界の近代化・合理化に大きく貢献した実績を誇り、現在もリーディングカンパニーならではのトータルな視点で、お客さまに最適な物流システムをご提案しています。多彩なサービスメニューをご用意して速やかに課題を解決することはもとより、共同プロジェクトに際しては綿密なヒアリングを重ねて潜在的な問題点を明らかにし、お客さまにあった物流計画をご提案します。いずれの場合も、お客さまごとに異なるご要望をじっくりうかがうことで、課題解決と効率化を実現し、高い信頼をいただいております。

ご提案する物流システムを確実に実現していくため、ニチレイでは全国をカバーする充実した冷蔵倉庫ネットワークと高品質な物流機能をご提供しています。独自のノウハウと最新技術を集結させた低温物流サービスセンターをベースに、高度な保管機能・各種流通加工機能・仕訳機能・共配システムなどの配送機能を組み合わせ、あらゆるニーズに対応する総合一括物流を実現します。



### サードパーティ ロジスティクス (3PL)

80年代にイギリスで考え出され、近年アメリカで急成長している新しいスタイルの物流事業形態です。そのコンセプトは、従来のように保管や輸送といった物流機能を個々にご提供するのではなく、お客さまの立場で物流全体を効率化するように根本的に見直し、その仕組みを作り上げることにあります。ニチレイがご提案する「お客さまのための物流」です。

## こだわり

本格的なおいしさへのこだわりで味の深さを知っている大人も納得。

### こだわりその一

醤油にこだわり

大豆だけを原料として作った「たまり醤油」は、濃厚な味わいと豊かな香りが身上です。なかでも「底引きたまり醤油」は、熟成した醤油を樽の底から抜いたもので、たまり醤油本来の香味がきわだち、焼おにぎりにおいしいコクとテリを加えています。

### こだわりその二

お米にこだわり

あきたこまち、ササニシキ、ひとめぼれと同水準の北海道産新品種「ほしのゆめ」を使用しています。ご飯としての「白さ」「ねばり」「甘さ」に優れ、冷凍しても炊きたてのおいしさが変わりません。かつお節と昆布のだしで炊き上げています。

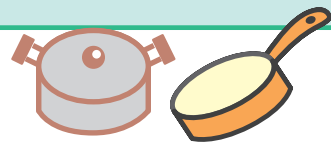
この春発売した「わが家のこだわり こんがり焼おにぎり」は、味の深さを知る大人を対象とし、その食シーンについて徹底的な調査を行い、その結果得られたコンセプトをもとに、商品開発を行いました。舌の肥えたお客さまにも納得いただけるよう、素材から焼き加減まで、徹底してこだわりました。ちょっと大きめ(80g)で、手にぎり風の丸いおにぎりに、たまり醤油を塗ってこんがり焼おにぎり、中はふっくらとした、食欲をそそる焼おにぎりです。





# INTRODUCTION

ジャンル別にとくに  
ご好評の商品をご紹介します。



## 冷凍食品

【お弁当にグッド ミニハンバーグ】



製造方法や工程を改善し、肉粒感とジューシーなおいしさを実現しました。両面をしっかり焼き上げ、冷めてもふっくらおいしい、お弁当にピッタリのハンバーグです。

【あぶり焼きチキン】



やわらかな手羽元を、伯方の塩と黒コショウを使って、じっくり焼き上げました。ちょっとスパイシーな風味で、鶏肉の旨みを活かしています。ご家庭の夕食に、おいしさのバリエーションを広げる新メニューです。

【みじん切り 葉だいこん】



やわらかな食感と大根の風味が楽しめる、葉を食べる大根です。皮膚や粘膜を丈夫にするビタミンA（カロチン）やビタミンCが豊富に含まれています。使う分だけ取り出せるチャック袋入りです。

## アセロラ食品

【アセロラドリンク】



発売以来、今年で13年目を迎えたロングセラー商品です。1缶にレモン4個分の天然ビタミンCが含まれています。この春、パッケージを一新し、味も最近の嗜好にあわせてスッキリと仕上げました。

## 常温食品

【しっかりごぼうポタージュ】



本格的な野菜のポタージュです。1日に必要な食物繊維の平均摂取量の3分の1が簡単に摂取でき、夏は袋のまま冷蔵庫で冷やせば、冷製の野菜ポタージュとしてお召し上がりいただけます。

【ふかひれスープ】



ふかひれスープを発売したのが、昭和40年（当時は缶入り）。調理タイプのふかひれスープ市場ではトップシェアをいただいております。卵を入れて仕上げるだけで、本格中華スープが手軽にできる、レトルトタイプのスープです。

# おいしさひと工夫

商品を使った調理例をご紹介します。

## 【葉だいこんを使っただし巻卵】

### 【材料 1人前】

葉だいこん	大さじ2	片栗粉	小さじ1/4
卵	2個	大根	適量
だし	大さじ2	生姜	適量
塩	少々		

### 【作り方】

- ① だしに塩、片栗粉を溶き、よく冷ましたら溶き卵とあわせ、凍ったままの葉だいこんを入れます。
  - ② よく熱したフライパンに油をひき、①を入れ、手早く巻き上げます。
  - ③ 最後に大根と生姜をおろしたものを添えたら出来上がり。
- \* 溶き卵は濾しておくとうま味よく焼けます。  
\* お好みで白ごま、ちりめんじゃこを入れてもおいしく召し上がれます。



## 【ふかひれスープを使った雑炊】

### 【材料 2～3人前】

ふかひれスープ	1箱	ご飯	150g(茶碗1杯分)
水	500cc	鶏ささみ肉	50g細切り
卵	1個		

### 【作り方】

- ① ふかひれスープと水を強火で煮立たせ、鶏ささみ肉を加えて中火にします。
  - ② 溶き卵、洗ったご飯を加え、ひと煮立ちさせたら出来上がり。
- \* 鶏ささみ肉は細切りにし、醤油で下味をつけた後、片栗粉を十分にまぶしておく、一層おいしくなります。  
\* お好みで、かいわれ大根などを添えてください。  
\* 鶏ささみ肉の代わりに、細切りにしたワンタンの皮でもおいしく召し上がれます。





## ニチレイの歩み ～日本の冷凍食品の歴史をたどる

### 冷凍食品の定義

冷凍する前に前処理（下ごしらえ）がしてある。  
凍結するときに組織が壊れないように、急速凍結してある。  
消費者の手元に届くまで、包装してある。  
食品の温度を-18℃以下に下げて保存、流通されている。

（日本冷凍食品協会の定義による）



昭和32年南極観測船「宗谷」出発



昭和43年頃の冷凍食品

どのスーパーにも多彩な商品が並ぶコーナーが確保され、ホテル、レストランや給食などでも大いに利用されている冷凍食品。では、日本で最初の冷凍食品はなにであったのか、ご存じですか。ニチレイが初めて冷凍食品に取り組んだのは昭和26年。冷凍ミカンと冷凍イチゴなどの冷凍果実を試験生産し、日本初の冷凍果実輸出商品としてアメリカへ輸出しました。これが後に全国の駅で売られ続けてきた冷凍ミカン（4個入り網パック）のルーツなのです。



昭和39年東京オリンピック選手村

昭和27年には「日冷凍果ジュース」の原料であるミカンと夏ミカン、昭和29年からモモ、パイナップルなど品種を拡大。同じく昭和29年に調理冷凍食品の元祖ともいえる「冷凍天ぷらセット」と「茶碗蒸し」を発売。一般家庭に冷凍冷蔵庫が普及する前のことだったので、いろいろな普及活動を行いました。昭和31年、都内関東クラブで一流知名人を招いて試食会を開催。昭和32年の南極観測船「宗谷」の船内食糧・基地越冬食品プロジェクトには当初から参画し、「茶碗蒸し」など69種の冷凍食品を提供。昭和39年の東京オリンピック開催時にも選手村へ食材を提供しています。まさに業務用冷凍食品の「はしり」です。



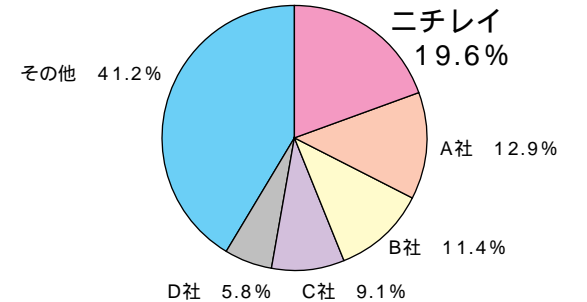
「今夜は和風がほしかった」シリーズの調理例

冷凍食品を家庭用と業務用に大別すると、主に外食や給食などで活躍する業務用冷凍食品は全体の約7割（平成9年）を占めます。品質の向上や種類の増加によってまだまだ拡大が見込める楽しみな分野です。

ニチレイは現在、家庭用約120品目、業務用約1,400品目の冷凍食品ラインアップを取りそろえ、元祖を誇る冷凍調理技術で業界をリードしています。これからも衛生面、品質面の徹底した管理はもちろん、歴史に裏打ちされた技術に磨きをかけて、食のシーンにたくさんの「おいしい笑顔」をお届けするため、一層励んでまいります。

### ニチレイのシェア（国内出荷額）

1998年7月 日経産業新聞調査

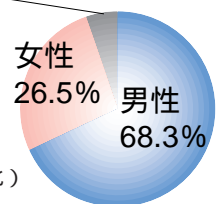




アンケートではたくさんのご意見や激励のお言葉をいただき、誠にありがとうございました。株主さまのお声はニチレイの貴重な財産であり成長の源でもあります。

アンケートのなかで、数多くご質問いただきました事柄につきまして、お答えいたします。  
これからもニチレイへの一層のご支援をお願い申し上げます。

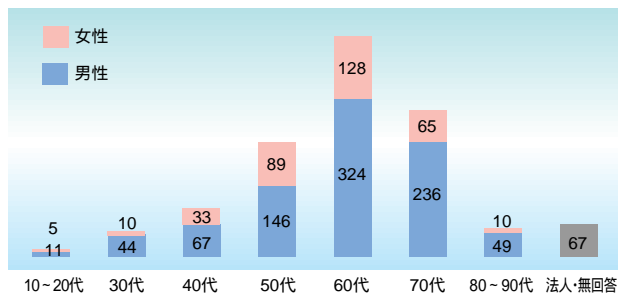
法人・無回答 5.2%



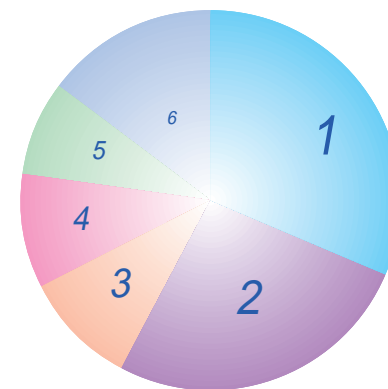
アンケートのご回答を  
いただいた方（男女構成比）

（第81期中間事業報告書にて実施）

アンケートのご回答をいただいた方（男女別年齢別人数）



当社株式の買い付け理由  
（複数回答あり）



1. 将来性	587名	31.4%
2. 安定性	493名	26.4%
3. 開発力	183名	9.8%
4. 企業イメージ	182名	9.7%
5. 市場競争力	151名	8.1%
6. その他	271名	14.5%
計	1,867名	100.0%

## A 食品の安全性について お答えします

最近、食品の安全性を脅かす環境ホルモンなどが次々と問題になっております。

当社は、これらの問題に真剣に取り組み、「安心・安全」な商品やサービスをお届けするため、常に努めています。食品添加物は社内基準を設け、その使用を必要最小限にとどめています。食品工場では、原料の調達から製品の流通まで含めた衛生管理方式である HACCP など、新しい品質管理システムを導入しています。また、世界的にも通用する当社独自の基準に合致した有機・無農薬栽培冷凍野菜を販売するなど、これからも「お客さま第一」を基本理念に万全の安全性確保に努力してまいります。

## A 環境問題への取組みについて お答えします

企業には、事業活動によって生ずる環境問題への適切な対応が求められています。当社では、オゾン層破壊防止のために冷蔵倉庫での特定フロンの使用を中止したり、産業廃棄物を削減するなど、これまでも環境保全に取り組んでまいりました。

今後も、包装材・容器、産業廃棄物のリサイクル、焼却炉から発生するダイオキシンなどの課題に対処するため、ISO-14000環境管理システムの導入、その他環境問題への対応技術の開発などを推進してまいります。

## A ヘルスケア食品について お答えします

生活者の健康志向が年々高まるなか、健康を維持し、丈夫な身体を保つためには、バランスのとれた食生活を続けることが基本です。当社は、「安心・安全・おいしさ」を基本コンセプトにした食品をご提供しております。ヘルスケア食品としては、一定のエネルギー量と適正な栄養バランスを兼ね備えた、糖尿病にお悩みのかた向けのセットメニューを開発し、昭和63年より発売しております。糖尿病食を調製するのに適する食品としての確かさと信頼性は、「厚生省許可特別用途食品」の許可を得たことで実証済みです。

当社は、今後も栄養バランスのとれた、おいしく、楽しい商品の開発に常に取り組んでまいります。

## A グループ会社について お答えします

平成12年3月期より、連結業績を中心とした情報の開示が始まります。

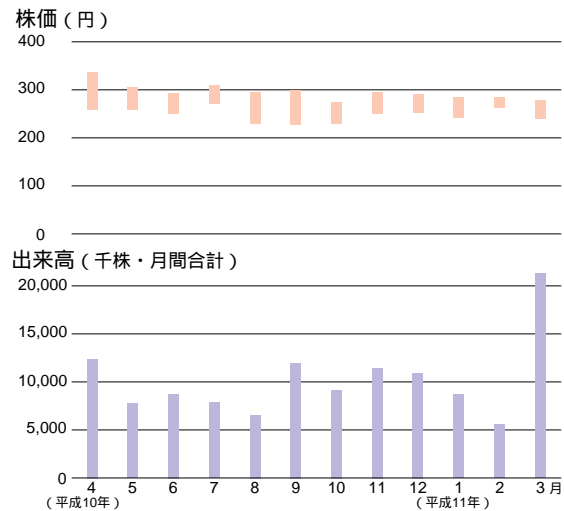
当事業報告書（HOPPE）でも、株主の皆さまにニチレイグループの経営状況をより良くご理解いただけるよう努力してまいります。

当期におきましては、北米における食品の製造・販売事業の再編や株式会社ユキワの早期再建など、国内外の子会社のリストラクチャリングに取り組み、多額の特別損失を計上するに至りましたが、今後はグループ全体の収益体質の強化に努め、連結業績の改善に全力を尽くしてまいります。

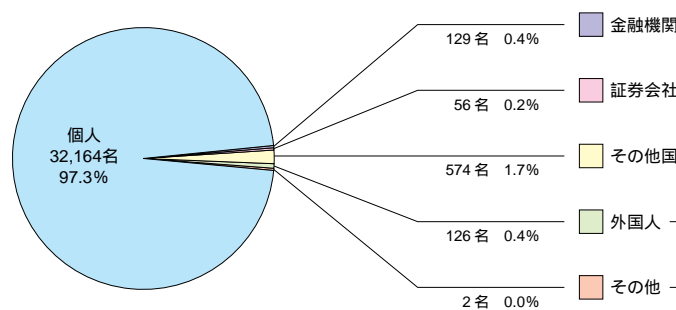
## 株式の状況

株価チャート

株価( )・出来高( )



所有者別株主数分布状況



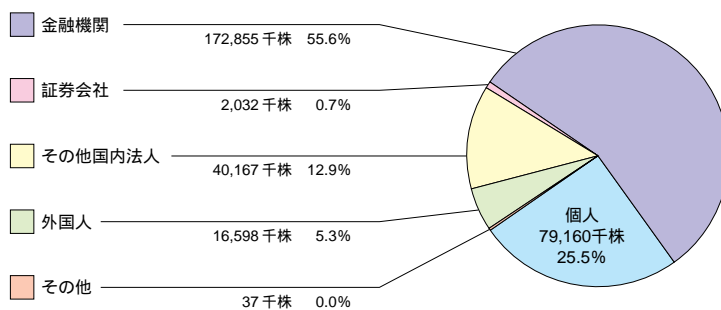
会社が発行する株式の総数 ..... 720,000,000株  
 発行済株式の総数 ..... 310,851,065株  
 1単位の株式数 ..... 1,000株  
 株主数 ..... 33,051名

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本生命保険相互会社	18,539	6.0
住友信託銀行株式会社(信託口)	17,669	5.7
株式会社富士銀行	13,655	4.4
安田信託銀行株式会社	11,162	3.6
日産火災海上保険株式会社	9,968	3.2
三菱信託銀行株式会社信託口	5,939	1.9
株式会社日本興業銀行	5,514	1.8
株式会社第一勧業銀行	5,403	1.7
第一生命保険相互会社	5,351	1.7
農林中央金庫	5,350	1.7

(注)安田信託銀行株式会社の持株数には、信託業務に係る株式5,998千株が含まれております。

所有者別株式数分布状況



## 会社概要

(平成11年6月29日現在)

**社名** 株式会社ニチレイ  
**所在地** 東京都中央区築地六丁目19番20号  
 ニチレイ東銀座ビル  
**設立** 昭和17年12月  
**役員** 代表取締役社長 手島 忠  
 専務取締役 中野 勲 治  
 専務取締役 吉川 好 三  
 専務取締役 山口 修司郎  
 常務取締役 福田 厚 司  
 常務取締役 原 直 弘  
 常務取締役 村上 英彦 二  
 取締役 横田 浩 彦  
 取締役 後藤 一 彦  
 取締役 島津 忠 之  
 取締役 大戸 武 元  
 取締役 榎 敏 秀  
 取締役 前 嶋 弘 一  
 取締役 千葉 充 幸  
 取締役 浦野 光 人  
 取締役 遠山 昌 利  
 取締役 椎橋 治 男  
 取締役 笠井 剛  
 取締役 荒 昌 裕  
 取締役 秋山 修  
 取締役 相馬 義比古  
 常任監査役(常勤) 北 文 男  
 監査役(常勤) 浜田 鴻之介  
 監査役 河上 和 雄  
 監査役 内野 治 泰

**従業員数** 2,511名(平成11年3月31日現在)

**会計監査人** 太田昭和監査法人  
 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号  
 日比谷国際ビル

**ホームページアドレス** <http://www.nichirei.co.jp/>



本社

### 支社

**北海道支社** 〒060-0010 札幌市中央区北10条西20-2-20  
 ☎(011)631-0178  
**東北低温物流支社** 〒980-8486 仙台市青葉区中央3-2-1  
 ☎(022)711-2101  
**東北営業支社** 〒980-8486 仙台市青葉区中央3-2-1  
 ☎(022)711-2101  
**関東低温物流支社** 〒104-0043 東京都中央区湊3-5-7  
 ☎(03)3297-4501  
**関東営業支社** 〒104-0043 東京都中央区湊3-5-7  
 ☎(03)3297-4501  
**中部低温物流支社** 〒456-0072 名古屋市熱田区川並町2-16  
 ☎(052)683-2551  
**中部営業支社** 〒456-0072 名古屋市熱田区川並町2-16  
 ☎(052)683-2551  
**関西低温物流支社** 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-4-8  
 ☎(06)6263-2555  
**関西営業支社** 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-4-8  
 ☎(06)6263-2555  
**九州低温物流支社** 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-7-5  
 ☎(092)841-6700  
**九州営業支社** 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-7-5  
 ☎(092)841-6700